

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ペラペラENGLISHBOOTCAMP		
○保護者評価実施期間	2025年 5月 1日 ~ 2025年 7月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2025年 5月 1日 ~ 2025年 5月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 8月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	英語を取り入れた療育 英語を取り入れたプログラムを実施し、子どもたちが生き生きと楽しく活動できる環境を整えている。自然に英語に触れることが、言葉への興味や表現力も広がっている。	カウンセラーによる面談 専門のカウンセラーによる面談を通じて、子どもや保護者の気持ちに寄り添い、安心できる支援体制を構築している。	面談内容のさらなる活用 カウンセラー面談で得られた情報を支援計画に反映し、よりきめ細やかな支援につなげる。
2	地域とのつながり 公園や美術館など地域資源を活用し、社会体験や多様な活動を取り入れている。	保護者との連携 面談や日々のフィードバックを重視し、家庭と協力しながら子どもの成長を支援している。	職員研修・スキルアップ 発達支援や心理的サポートに関する研修を充実させ、職員の専門性をさらに高める。
3		一人ひとりに応じた支援 子どもの発達段階や特性を踏まえた個別支援を実施し、安心して自己表現ができるよう支えている。	記録・評価の充実 面談記録や活動記録を体系的にまとめ、エビデンスに基づいた支援を実施していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	英語を取り入れた療育は子どもたちの意欲につながっているが、発達段階により理解度や関心に差があるため、活動内容の調整が課題となっている。	忙しい日常業務の中で、支援記録の分析や保護者支援に十分な時間を確保しにくい。	記録のICT化や定期的な振り返りを行い、支援計画や次の活動に活かせる体制を整える。
2	地域との交流は一定程度行っているものの、さらなる幅広い連携の機会が求められる。	定期面談でのフィードバック 子どもの変化を個別にフィードバックし、保護者が成長を実感できるよう具体的な事例を伝える。	外出活動や行事については年間計画を立て、実施後の振り返りを職員間で行き次につなげる。
3	英語を取り入れた活動の価値や子どもの変化を、家庭にわかりやすく伝える仕組みが弱い。	保護者アンケートの実施 「家庭でどんな変化を感じたか」を聞き取り、事業所からの伝え方に改善点を取り入れる。	定例の職員ミーティングやケース検討を充実させ、支援の方針をチームで統一する。